

## 平成 29 年度 第二回水工学委員会議事録(案)

日 時： 平成 30 年 3 月 5 日(月)18:00～20:00

場 所： 岡山大学津島キャンパス 一般教育棟 A32

出席者：

清水(北大), 竹林(京大), 小松(九大), 浅沼(筑波), 天野(建設技術研究所), 小河(パシフィック), 神田(東工大), 田中(埼玉大), 堀(京大), 横山(首都大), 渡邊(東京建設コンサルタント), 朝位(山口大), 石平(山梨大), 大石(神戸大), 風間(東北大), 鼎(東工大), 川越(福島大), 木村(北大), 立川(京大), 張(高知大), 戸田(名大), 中山(神戸大), 藤田(神戸大), 宮本(芝工大), 矢島(島根大), 矢野(九大), 吉田(岡山大), 堀田(建設技術研究所)

記 録： 川越

### 報告事項

1. 平成 29-30 年度水工学委員会構成が報告され, 出席者にて確認された.
2. 平成 29 年度水工学論文集編集作業状況が報告された.
  - ・ **Beast International Paper Award** の受賞(受賞者: Magfira SYARIFUDDIN 氏, 題名: **EMPIRICAL MODEL FOR REMOTE MONITORING OF RAIN-TRIGGERED LAHAR AT MOUNT MERAPI**)が報告された. 次回委員会にて論文賞, 論文奨励賞を決定することも確認された.
  - ・ 論文集に 10 社の企業広告(広告バナー)がついたことにあわせて, この広告料の掲載料についての報告があった.
  - ・ 査読の正常化に対する確認があった.
  - ・ 却下論文に対するクレームに対する確認がなされた.
  - ・ フォーマット・投稿の誤りに関する徹底した改善の対応について議論された.
3. 各部会, 小委員会, 関連委員会の活動報告及び活動計画について
  - ・ 水文部会からの活動報告及び活動計画より, 2018 年 11 月 8~10 日に大井川にて研究集会があること等が報告された.
  - ・ 河川部会からの活動報告及び活動計画より, 2018 年 6 月 12,13 日に河川シンポジウムが東大弥生講堂にて開催されること, 182 件の投稿があったことが報告された.
  - ・ 基礎水理部会からの活動報告及び活動計画より, 委員, オブザーバーの交代, 6 月 20~22 日の iRIC 講習会の東北大学での開催が報告された.
  - ・ 環境水理部会からの活動報告及び活動計画より, WG 等の活動が報告された.
  - ・ 水工学委員会小委員会 ISO/TC113 国内検討委員会からの活動報告及び活動計画より, 流量観測, インド会議の活動が報告された.
  - ・ 水害対策小委員会からの活動報告及び活動計画より, 2018 年のアメリカ合衆国のハリケーン災害調査などの計画が報告された.

- ・流量観測技術高度化検討小委員会からの活動報告及び活動計画より、2018年度流量観測現地ワークショップなどの計画が報告された。
- ・グローバル気候変動適応研究推進小委員会からの活動報告及び活動計画より、水シンポジウム、全国大会での活動等が報告された。
- ・出版委員会からの活動報告及び活動計画より、水理公式集発刊予定について報告された。
- ・減災・防災委員会からの活動報告及び活動計画より、設立経緯や活動が報告された。
- ・河川懇談会から2018年6月28日のイベント開催の報告がなされ、近々に詳細が連絡されることの報告があった。
- ・平成29年度第2回海岸工学委員会報告があり、第53・54回水工学に関する夏期研修会について説明された。
- ・Common MPより、ソースコードオープンソースの方向で調整していること、2月7日に地域連携ワークショップを実施した報告がされ、2018年12月11日にも開催する予定が説明された。
- ・土木学会 海岸工学委員会からの沿岸域の気候変動影響評価・適応検討に関する小委員会（通称：気候変動小委員会）設立に関する報告があった。
- ・アゲールシンポジウムの報告があった。
- ・平成30年度全国大会 共通セッション開催の報告があった。
- ・第8回アジア土木技術国際会議（CECAR8）についての開催の報告があった。

#### 協議事項

1. 平成30年度の年間スケジュールについての協議が行われた。水工開催により例年と異なるスケジュールになることが確認され、一般企業への投稿強化の方針が協議された。
2. 平成30年度第63回水工学講演会（北海道大学）について、詳細計画案に関する協議が行われた。2018年11月25日(日)～27日(火)からの開催につき、初日の会場使用の制限を確認し、調整する方針を協議した。
3. 平成30年度水工学論文集編集作業の協議が行われた。経費削減のため、メール審議による委員会を増やす可能性について報告された。今年度の水工の状況の収支状況も勘案し、引き続き検討することが確認された。また、水文の編集委員の増員も確認された。
4. 平成30年度第23回水シンポジウム（静岡）について協議が行われ、計画の詳細について確認を進め、承認された。
5. 平成31年度第24回水シンポジウム開催地について協議が行われた。平成31年度は滋賀県で調整中であることが確認された。
6. 平成30年度第54回水工学に関する夏期研修会について（山口大学）協議が行われ、計画の詳細について確認を進め、承認された。
7. 土木学会論文集 B 部門合同編集小委員会の次期委員推薦について協議が行われ、手計

太一氏（富山県立大学）、赤松良久氏（山口大学）、音田慎一郎氏（京都大学）が新委員となること承認された。

8. グローカル気候変動適応研究推進小委員会規約について協議され、承認された。

9. 平成 30 年度全国大会 研究討論会について協議され、承認された。

10. 英文論文集に関して、論文編集小委員会より土木学会論文集、および土木学会論文集(B1)の SCI 対象論文集化の提案がなされ、協議された。IF 付き論文までの道筋等の議論や土木学会全体としての動向、予算など勘案しなければならない事項が多いものの、WGの参加に向けた人的資源の補充もすすめて検討することが承認された。

11. その他として、今後の活動計画も含めて、今年度の現況予算状況もふまえつつ、委員会の持続性、収入計画を検討していくことが提案された。また、2021 年に札幌開催の APD-IAHR の活動協力について報告があった。

以上